

第Ⅲ章 遺構と遺物の検討

第1節 NW04－1次調査における古環境に関する検討

パリノ・サーヴェイ株式会社(辻本裕也)

1)はじめに

今回のNW04－1次調査区は、上町台地の頂部および東側斜面にあたり、古墳時代中期から飛鳥時代にかけて埋没した谷地形をはじめ、難波宮に伴う柱穴や区画溝、豊臣期から徳川期にかけての屋敷地や大規模な造成の跡、江戸時代の石組溝などが確認されている。

今回の分析調査は、難波宮造営期以前の埋没谷埋積物をはじめ、各期の堆積物について花粉分析を実施し、①古墳時代から奈良時代における法円坂倉庫群や難波宮建設による土地開発が進むなかで、周辺の植生がその前後で変化しているか否か、②中世における耕作地から、近世初め(豊臣期)の大規模な土地利用の状況変化に伴う、周辺の植生変化について検討を行う。また、難波宮造営に伴う木製品の加工で生じたと考えられる木片について樹種同定を行い、花粉分析による古植生検討結果との比較を行い、材の供給と消費、周辺原野の開発と都城の建設等で有機的な関連が見込めるかどうか等について検討する。

2)分析試料について

i)花粉分析

調査区内の堆積層は、層相および出土遺物に基づき、上位より第1～14層に層序区分されている。各堆積層の層相や分布状況については、発掘調査時の詳細な記述があるので、ここでは花粉分析実施地点の層相について、発掘調査時の所見に基づいて、不攪乱試料として採取された分析試料の観察結果も合わせて記載する(図55)。

台地斜面に位置するA列・B列・F列地点では、第1・2・3・4・7・8・9・14層が確認されている。第1層は礫混り黄褐色～オリーブ褐色中～粗粒砂からなる近世の整地層とされる。第2・3層は暗褐色シルトからなる、幕末から近代初めにかけての耕作土である。第4層は亜角状のシルトブロック土(偽礫)と砂質シルトからなる江戸時代末期の整地盛土とされる。第7層は灰黄褐色を呈する細礫混り中～細粒砂と、これらの偽礫からなる豊臣期の盛土とされる。第8層は褐～にぶい黄褐色シルトからなる中世の遺物包含層とされる。B列地点での本層の層相は細礫・中粒砂が混る細粒砂質シルトからなり、土壤構造の発達が顕著である。第9層は暗褐色を呈する細～中粒砂混り粘土質シルトからなる難波宮廃絶後の地層とされる。B列地点・A列地点での本層の層相は、第9b層がみかけ上塊状をなす細粒砂混り粘土質シルトからなり、孔隙の発達が顕著な土壤構造を示す。第9a層は細粒砂混り粘

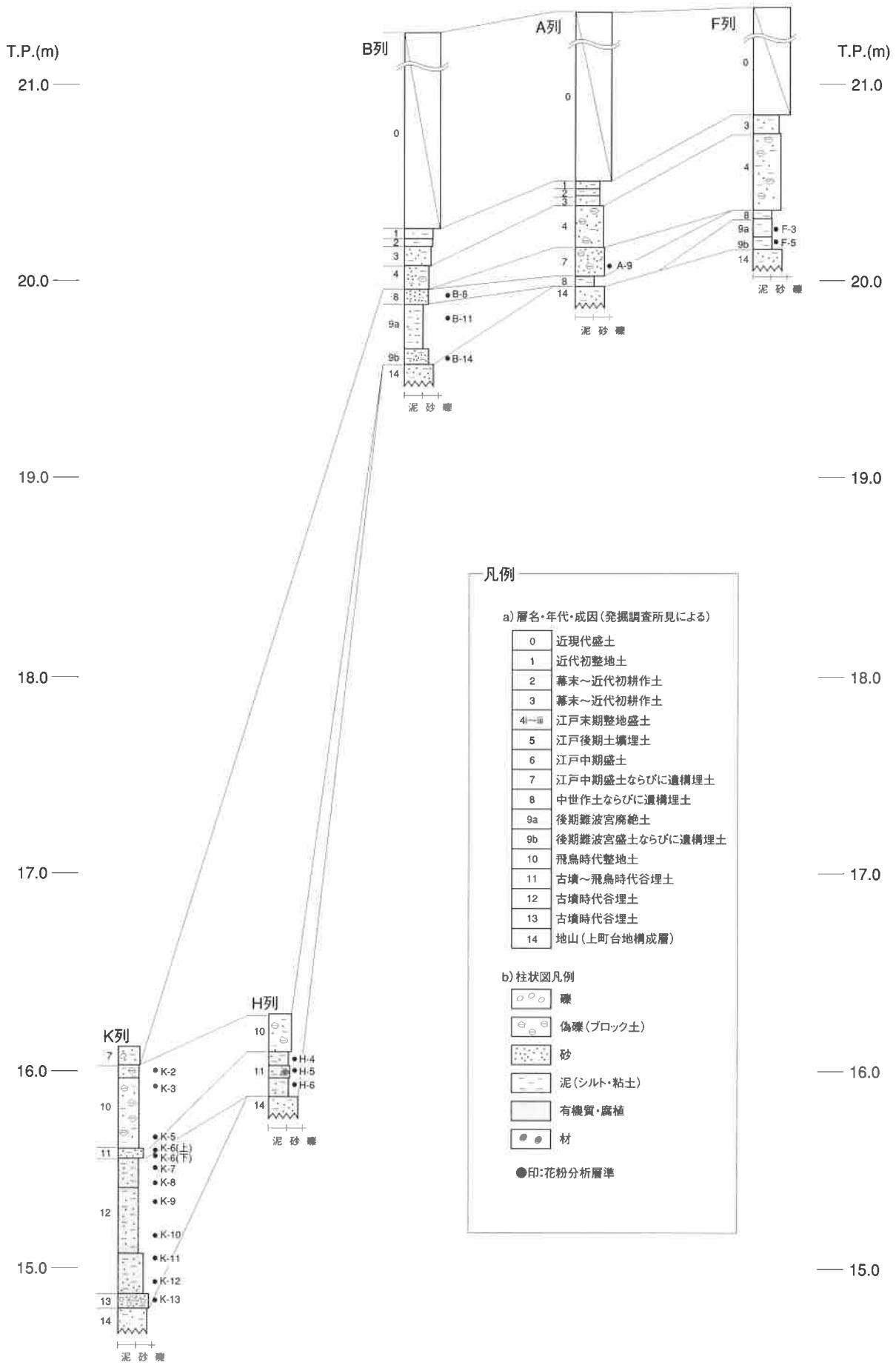


図55 調査地点の層序および試料採取層準

土質シルトからなり、亜角を呈する1cm以下のブロック状構造(粒団?)の発達が顯著な土壤構造を示す。第14層は調査区が位置する上町台地を構成する黄褐色シルト～礫からなる堆積物である。

谷に位置するK列・H列地点では、谷埋積物である第10・11・12・13層が確認されている。第10層は暗オリーブ褐色中～粗粒砂質シルトとシルトの偽礫を含む灰色中～粗粒砂からなる飛鳥時代の整地盛土とされる。K列地点での本層はシルトを主体とする層相を呈し、1cm以下の亜角状の偽礫からなる構造が確認される。第11層は灰黄褐～暗褐色を呈する中～粗粒砂質シルトからなり、7世紀中頃の遺物を含むとされる。本層の層相はH列地点とK列地点で異なっている。H列地点は小窪地であるSX1001に堆積したもので、水成堆積時の初成構造を残す。中～粗粒砂のブロック土、細粒砂ブロック土、有機質に富むシルト、木材などの植物遺体などからなる、葉理構造の発達が顯著な層相を示す。一方、K列地点はシルト質細粒砂からなり、H列地点で確認された植物遺体は確認されず、擾乱の影響を受けた土壤構造の発達が顯著な層相を示す。第12層は灰黄褐～黒褐色を呈する細礫混り中～粗粒砂質シルトからなり、古墳時代の遺物を含むとされる。K列地点での本層の層相は、下部から上部にかけて粒径が小さくなる上方粗粒化を示しており、全体に生物擾乱の影響を受けており、土壤構造の発達が顯著である。堆積期間中に土壤発達が顯著であったことが窺える。第13層は黒褐色を呈する砂礫からなり、古墳時代中期末～後期初めの遺物を含むとされる。K列地点の本層は基質支持の細礫および細粒小礫～細粒砂からなり、生物擾乱の影響を受けている。本層形成期も土壤化していることが窺える。

花粉分析は、先述の目的を考慮して、図55に示す層準(21層準)について実施する。

ii)樹種同定

樹種同定用試料は、谷埋積物の第11層と第12層の層界付近より多量に出土した加工木の木屑と考えられる木片である。500片以上の木片が一括で取上げられた状態であったが、試料の形状、色、木目等を考慮して、同定資料として15点を選択した。選択した15点については、作業の便宜上、試料番号を付して、各々について形状、木取りの状態について記載を行った。

3)分析方法

i)花粉分析

試料約20gについて、水酸化カリウムによる泥化、篩別、重液(臭化亜鉛：比重2.3)による有機物の分離、フッ化水素酸による鉱物質の除去、アセトリシス(無水酢酸9、濃硫酸1の混合液)処理による植物遺体中のセルロースの分解を行い、物理・化学的処理を施して花粉を濃集する。分析後の残渣をグリセリンで封入してプレパラートを作成し、400～1,000倍の光学顕微鏡下でプレパラート全面を走査しながら、出現する全ての種類について同定・計数する。なお、今回の分析試料の多くは、後述するように花粉化石の保存状態が悪いものであったため、1試料について2～3枚のプレパラートを作成し同定を行った。

結果は同定・計数結果の一覧表、および主要花粉化石群集の層位分布図として表示する。層位分布図の出現率は、花粉化石が良好な産状を示した地点では、木本花粉が木本花粉総数、草本花粉・シダ

類胞子が総数から不明花粉を除いた数をそれぞれ基数として、また、化石の保存状態が良くなかった地点については、花粉・胞子化石総数を基数として百分率で算出し図示する。

ii) 樹種同定

選択した各木片の形状や大きさ等を記録した上で、剃刀の刃を用いて木口(横断面)・柾目(放射断面)・板目(接線断面)の3断面の徒手切片を作製し、ガム・クロラール(抱水クロラール、アラビアゴム粉末、グリセリン、蒸留水の混合液)で封入し、プレパラートを作製する。作製したプレパラートは、生物顕微鏡で観察・同定する。

4) 分析結果

i) 花粉分析

結果を表11、図56・57に示す。花粉化石は全体的に保存状態が悪く、試料中からほとんど検出されないものも多い。Moore & Webb(1978)等を参考にすれば、土壤中から抽出した花粉化石の出現率を求める場合、出現率の測定誤差は二項分布に従うと考えられる。このため、検出数が少ない場合は、統計的な誤差範囲が大きくなる。これは仮に出現率50%の種類が試料中に存在した場合、その測定誤差が約40~60%の間より内側に入る数であり(信頼度 2σ として計算)、再分析を行っても優勢な種類が逆転しないと考えられるからである。また、花粉化石はシダ類胞子のほうが広葉樹花粉に比べて風化に対する耐性が強い[徳永重元・山内輝子1971]。このため、保存が悪い試料において計測数を増やし図化させても、針葉樹花粉やシダ類胞子などが相対的に高率となり、周辺植生を反映するのではなく、化石の風化に対する耐性を反映した結果になってしまう。これらのこと考慮し、今回は比較的花粉化石が多産した谷内に位置するK列地点とH列地点を中心に結果について述べる。

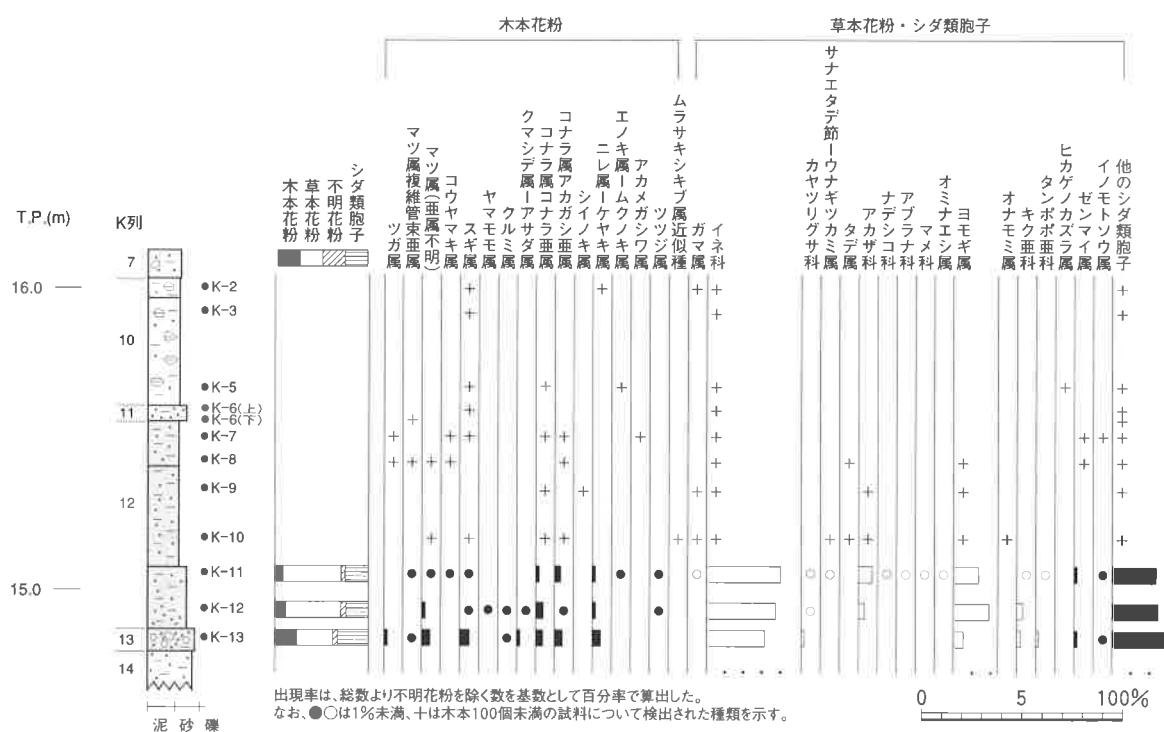


図56 K列地点の花粉化石群集の層位分布

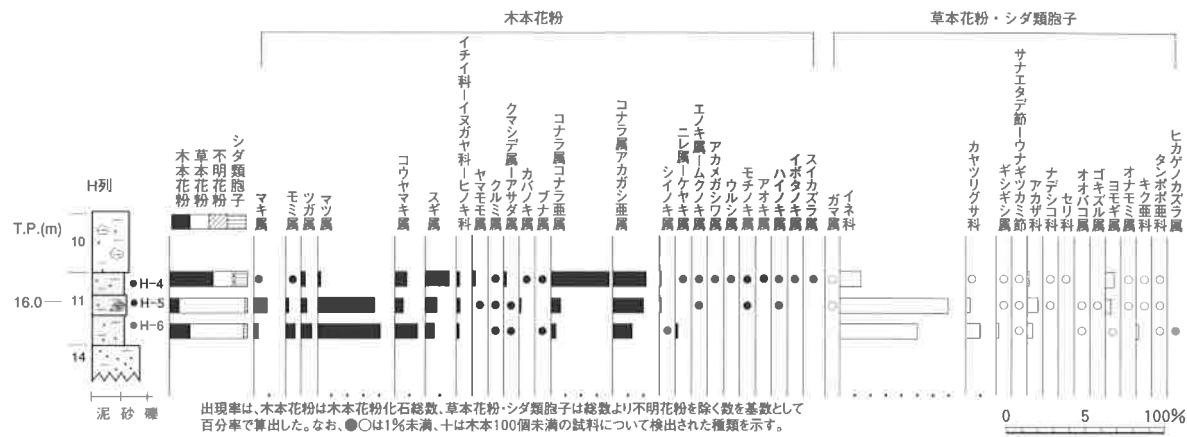


図57 H列地点の花粉化石群集の層位分布

表11 花粉分析結果

種類	地点・層名・試料名																						
	A列		B列		F列		G列		K列														
	7層	8層	B-8	B-11	B-14	F-3	F-5	11層	H-4	H-5	H-6	K-2	K-3	K-5	K-6 (上)	K-6 (下)	K-7	K-8	K-9	K-10	K-11	K-12	K-13
A-9	A-9	B-8	B-11	B-14	F-3	F-5						K-2	K-3	K-5	K-6 (上)	K-6 (下)	K-7	K-8	K-9	K-10	K-11	K-12	K-13
木本花粉	-	-	-	-	-	-	-	1	16	7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マキ属	-	-	-	-	-	-	-	1	4	14	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
モミ属	-	-	-	3	1	-	-	9	7	16	-	-	-	-	-	-	1	4	-	-	-	-	-
ツガ属	-	-	-	-	-	-	-	1	37	62	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	1	2	9
マツ属復雜管束亞属	-	-	-	-	-	-	-	5	30	27	-	-	-	-	-	-	1	2	-	1	3	2	-
マツ属(亜属不明)	-	-	1	-	1	-	-	24	11	33	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	1	2	-
コウヤマキ属	-	-	-	-	-	-	-	46	14	13	2	2	1	1	-	-	1	1	-	-	1	1	10
スギ属	1	-	-	-	-	-	-	5	4	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
イダイ科-イヌガヤ科-ヒノキ科	-	-	-	-	-	-	-	5	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヤマモモ属	-	-	-	-	-	-	-	2	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クルミ属	-	-	-	-	-	-	-	5	1	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1
クマシデ属-アサダ属	-	-	-	-	-	-	-	2	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	3
カバノキ属	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ブナ属	-	-	-	-	-	-	-	108	11	7	-	-	-	-	-	-	2	1	1	1	5	4	7
コナラ属コナラ亞属	-	-	-	-	-	-	-	63	35	27	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	10	1	9
コナラ属アカガシ亞属	-	-	-	-	-	-	-	3	2	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
シノキ属	-	-	1	1	1	-	-	2	-	3	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	2
ニレ属-ケヤキ属	1	-	-	1	1	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
エノキ属-ムクノキ属	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
アメガシワ属	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ウルシ属	-	-	-	-	-	-	-	2	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
モチノキ属	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
アオキ属	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ツツジ科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	1
ハイノキ属	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
イボタノキ属	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ムラサキシキブ属近似種	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
スイカズラ属	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
草本花粉	-	-	-	-	-	-	-	3	5	-	1	-	-	-	-	-	1	2	1	-	-	-	-
ガマ属	-	-	-	-	-	-	-	1	72	1071	413	4	1	-	-	-	7	2	17	19	126	39	62
イネ科	2	-	-	-	-	-	-	2	47	81	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
カヤツリグサ科	-	-	-	-	-	-	-	1	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ツユクサ属	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クワ科	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ギシギシ属	-	-	-	-	-	-	-	5	3	15	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
サナエタデ節-ウナギツカミ節	-	-	-	-	-	-	-	1	2	2	-	-	-	-	-	-	2	8	23	3	-	-	
タデ属	-	-	-	-	-	-	-	6	110	35	-	-	-	-	-	-	2	8	23	3	-	-	
アカサカ科	-	-	-	-	-	-	-	4	1	-	-	-	-	-	-	-	1	2	8	23	3	-	-
ナデシコ科	-	-	-	-	-	-	-	4	1	-	-	-	-	-	-	-	1	2	8	23	3	-	-
アブナラ科	-	-	-	-	-	-	-	4	1	-	-	-	-	-	-	-	1	2	8	23	3	-	-
バラ科	-	-	-	-	-	-	-	4	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マメ科	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
コミカンソウ属	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
セリ科	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ネナシカズラ属	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
シソ科	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
オオバコ属	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
オミナエシ属	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ゴキヅル属	-	-	-	-	-	-	-	31	62	7	-	-	-	-	-	-	1	1	3	44	20	10	-
ヨモギ属	-	-	-	-	-	-	-	1	2	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	2	3	4
オナモミ属	-	-	-	-	-	-	-	4	1	15	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	2
キクアザミ属	-	-	-	-	-	-	-	1	1	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
タンボボ属	-	-	-	-	-	-	-	11	4	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	12	6	10
不明花粉	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
シダ類胞子	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1	2	-	-	4	-	3
ヒカゲンカズラ属	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	2	-	-	4	-	3
ゼンマイ属	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	1	-	1
イノモトウ属	1	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	1	-	1
他のシダ類胞子	3	3	25	2	8	4	85	40	28	3	2	4	13	2	12	19	19	25	73	25	61	-	-
合計	2	1	5	4	0	0	292	179	218	3	2	3	1	1	7	9	3	5	30	14	52	-	-
木本花粉	2	0	0	0	0	1	140	1316	580	5	1	0	2	0	7	4	21	36	209	66	82	-	-
草本花粉	0	0	0	0	0	0	11	4	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	12	6	10	-	-
不明花粉	0	0	0	0	0	0	3	2	4	3	2	5	13	2	15	21	19	25	78	25	65	-	-
シダ類胞子	4	3	25	2	8	4	85	40	28	3	2	4	13	2	12	19	19	25	73	25	61	-	-
総計(不明を除く)	8	4	30	6	8	5	519	1536	828	11	5	8	16	3	29	34	43	66	317	105	199	-	-

K列地点：第13層(K-13)・第12層(K-7～12)は花粉化石の保存状態が悪く、種類数、個数とともに少ない試料が多いが、第10層より上位に比べると、やや多く検出されている。化石の保存状態から、統計的な誤差が大きくなる可能性が高いが、傾向を把握するために総数を基数として分布図を作成した(図56)。傾向としては、下記のH地点の第11層と同様イネ科やヨモギ属などの草本類が卓越する組成を示す。なお、プレパラート中でのイネ科・ヨモギ属には、花粉が集合した状態(花粉塊)として産出するものが認められる(計数時は1個体として扱っている)。木本花粉では、マツ属、スギ属、コナラ亜属、アカガシ亜属、ニレ属-ケヤキ属などが確認される。第11層(K-6上、K-6下)・第10層(K-2～5)は、種類数、個数ともに極端に少なく、花粉化石がほとんど見られない。これらの試料中には、フッ化水素酸処理で溶け残ったと思われる植物珪酸体が多量に検出される。

H列地点：本地点の第11層(H-4～6)ではK地点とは異なり、花粉化石の保存状態が良い。第11層下部・中部(H-5、H-6)は草本類の割合が高いのが特徴で、特にイネ科の割合が高く、カヤツリグサ科、アカザ科、ヨモギ属などが見られる。木本花粉では、マツ属の割合が高く、コウヤマキ属、スギ属、コナラ亜属、アカガシ亜属が見られる。第11層上部(H-4)の組成は、これらとは異なり、木本花粉を主体とした組成に変化する。各種類では、コナラ亜属の割合が増加し、マツ属が急激に減少する。草本花粉は、イネ科やヨモギ属が見られるものの、下位層準に比較して極端に少ない。

ii)樹種同定

樹種同定結果を表12に示す。木片は、針葉樹2種類(コウヤマキ・ヒノキ)と広葉樹4種類(コナラ属アカガシ亜属・ツブライ・シキミ・タイミンタチバナ)に同定された。各種類の解剖学的特徴等を記す。

- ・コウヤマキ(*Sciadopitys verticillata* (Thunb.) Sieb. et Zucc.) コウヤマキ科コウヤマキ属
軸方向組織は仮道管のみで構成され、樹脂道および樹脂細胞は認められない。仮道管の早材部から晩材部への移行は緩やかで、晩材部の幅は狭い。放射組織は柔細胞のみで構成される。分野壁孔は窓状となる。放射組織は単列、1～5細胞高。
- ・ヒノキ(*Chamaecyparis obtusa* (Sieb. et Zucc.) Endlicher) ヒノキ科ヒノキ属

表12 樹種同定結果

試料名	時期	試料番号	形状	大きさ(cm)			木取	樹種
				軸方向	幅(長径)	厚さ(短径)		
NW02-13 III区2tr (木屑層)	古代(古墳後～飛鳥)	1	角材	8.8	3.9	2.3	-	コナラ属アカガシ亜属
		2	板材	9.8	7.8	0.9	追柾	ヒノキ
		3	板材	8.8	5.4	1.2	追柾	ツブライ
		4	板材	6.4	4.3	1.0	追柾	ヒノキ
		5	板材	11.4	2.4	0.7	追柾	ヒノキ
		6	角棒状	5.3	0.7	0.5	-	ヒノキ
		7	木片	6.7	2.5	1.9	-	コウヤマキ
		8	板材	6.8	3.9	1.0	追柾	ヒノキ
		9	丸棒状	6.0	2.5	2.1	芯持丸材	タイミンタチバナ
		10	木片	2.8	2.7	1.2	-	ヒノキ
		11	木片	5.0	3.2	1.6		ヒノキ
		12	角棒状	5.8	1.1	1.2		ヒノキ
		13	丸棒状	4.3	1.1	0.8	芯持丸材	ヒノキ
		14	木片	4.7	2.3	0.8		シキミ
		15	楔状	3.4	4.6	2.5	-	ヒノキ

軸方向組織は仮道管と樹脂細胞で構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行は緩やか～やや急で、晩材部の幅は狭い。樹脂細胞は晩材部付近に認められる。放射組織は柔細胞のみで構成される。

分野壁孔はヒノキ型～トウヒ型で、1分野に1～3個。放射組織は単列、1～10細胞高。

- ・コナラ属アカガシ亜属(*Quercus* subgen. *Cyclobalanopsis*) ブナ科

放射孔材で、管壁厚は中庸～厚く、横断面では橢円形、単独で放射方向に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1～15細胞高のものと複合放射組織がある。

- ・ツブラジイ(*Castanopsis cuspidata* (Thunberg) Schottky) ブナ科シイノキ属

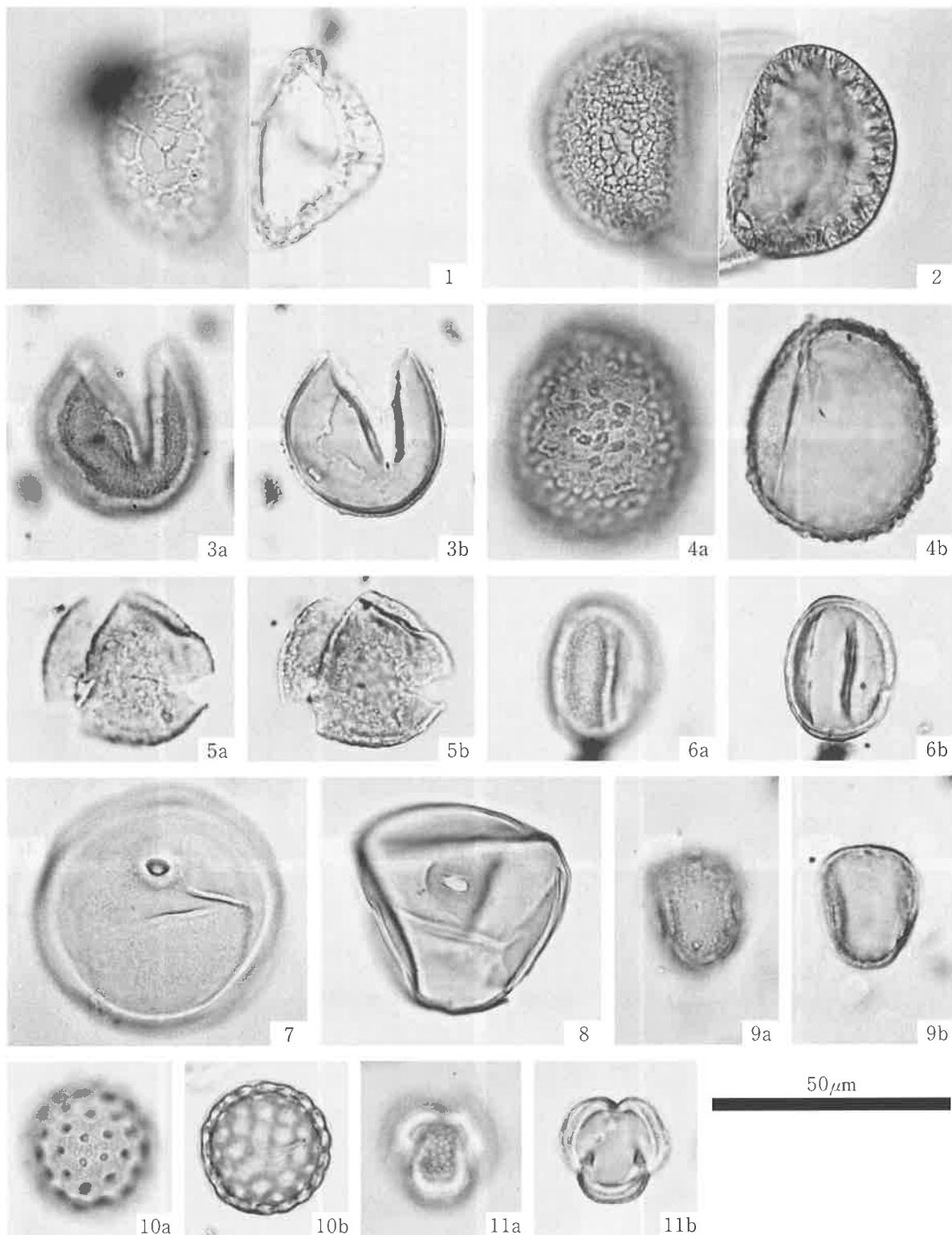
環孔性放射孔材で、道管は接線方向に1～2個幅で放射方向に配列する。孔圈部は3～4列、孔圈外で急激に管径を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1～20細胞高のものと集合～複合放射組織がある。

- ・シキミ(*Illicium anisatum* L.) シキミ科シキミ属

散孔材で、管壁厚は中庸～薄く、横断面では多角形、単独または2～4個が複合して散在する。道管の分布密度は高い。道管は階段穿孔を有し、壁孔は階段状～対列状に配列する。放射組織は異性、1～2細胞幅、1～20細胞高。放射組織は水平・垂直壁ともにじゅず状の肥厚を有する。

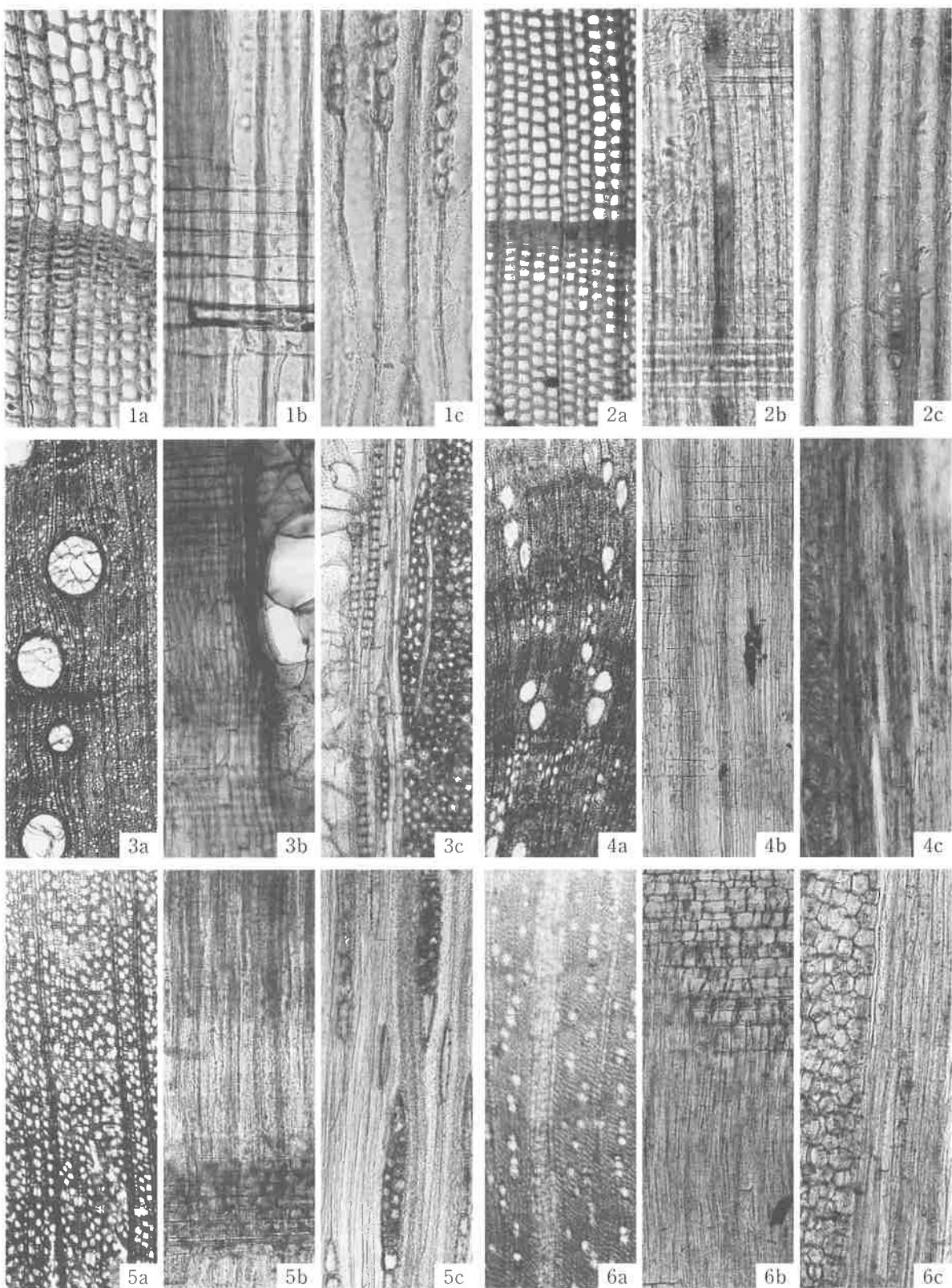
- ・タイミンタチバナ(*Myrsine seguinii* Lev.) ヤブコウジ科ツルマンリョウ属

散孔材で、道管は単独または2～3個が放射方向に複合して散在する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は大型。



1. マキ属 (H-5)
 3. スギ属 (H-4)
 5. コナラ亜属 (H-4)
 7. イネ科 (H-5)
 9. カヤツリグサ科 (H-6)
 11. ヨモギ属 (H-5)
2. マツ属複維管束亜属 (H-6)
 4. コウヤマキ属 (H-5)
 6. アカガシ亜属 (H-4)
 8. イネ科 (H-6)
 10. アカザ科 (H-5)

写真9 花粉化石



1. コウヤマキ(試料番号7)
 2. ヒノキ(試料番号8)
 3. コナラ属アカガシ亜属(試料番号1)
 4. ツブラジイ(試料番号3)
 5. シキミ(試料番号14)
 6. タイミンタチバナ(試料番号9)
- a : 木口、b : 桟目、c : 板目

■ 200 μm : 3~6a
 ■ 200 μm : 1~2a, 3~6b, 3~6c
 ■ 100 μm : 1~2b, 1~2c

写真10 樹種細部

報告書抄録

ふりがな	なにわきゅうしのけんきゅうだいじゅうし							
書名	難波宮址の研究 第十四							
副書名								
編著者名	辻美紀・宮本佐知子・田中清美							
編集機関	財団法人 大阪市文化財協会							
所在地	〒540-0006 大阪市中央区法円坂1-1-35 TEL 06-6943-6833							
発行年月日	西暦 2005年6月30日							
所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因	
なにわのみやあと 難波宮跡	おおさかしらゆうおうく 大阪市中央区 法円坂1丁目	27128	—	34°40'50"	135°31'24"	200401112~050331	1,600m ²	大阪市住宅供給公社法円坂住宅の建替え。
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物				
難波宮址	集落	弥生時代		打製石器(石鎚・石錐)				
	宮跡	古墳時代	谷	土師器・須恵器・金属製品(勾玉形飾金具)・滑石製品(白玉・円板)・ガラス製品(小玉)				
	畠	飛鳥時代	掘立柱建物・土壙	土師器・須恵器・瓦・(木製品)				
		奈良時代	溝	瓦				
		鎌倉・室町時代	掘立柱建物・溝・土壙	瓦器・瓦質土器・須恵器・中国製磁器				
(大坂城跡)	屋敷地 畠	豊臣期	掘立柱建物・井戸・溝・落込み・土壙	土師器・陶磁器・瓦・木製品・羽口				
		江戸時代	井戸・溝・土壙・土取り穴・礎石建物・耕作溝	土師器・陶磁器・瓦・木製品・金属製品・錢貨・石製品・土人形				